# 第１学年　音楽科学習指導案

日　時　　平成１６年９月８日（水）５校時
場　所　　宮古市立第一中学校　音楽室
生　徒　　１年　４組
　　（男子１６名、女子１６名）
授業者　　教諭　芳　賀　郁　夫

１　題材名　　創作表現「リズムを合わせて」

２　題材について

（１）　題材・教材について

音楽を表現しようとするときには、相応の技能が必要であるが、必ずしもその技術の向上だけが音楽教育における最終目標ではない。その前提にある、例えば自分なりに感情を込めて歌ったり演奏したりするための意欲や想像力を育てることが大切であろう。現指導要領においても、「生きる力」の具現化された基本的な要素として、同じことが記されている。しかしながら、音楽的な技能を持たずして、意欲や想像力を高めていくこともできないと言える。つまり、知識や技能などの諸能力は、豊かな情操を養うための心情的な高まりと共に、授業の中で確実につけさせていかなければならないと考える。

本題材では、音楽の諸要素の一つである「リズム」に焦点をあて、リズム模倣演奏やリズム創作を通して、その働きを感じ取りながら、音楽の仕組みや他の要素との関わりを学習していこうと考えている。音楽は多くの要素から構成されているが、それぞれの要素の関わりを意識していくことは、これから先の学習において大切なことである。リズムは比較的とらえやすい構成要素であり、「基礎・基本の定着」を図る上で、他の要素ととらえて発展的に学習を進めるためには必要な要素といえる。本題材は、学習指導要領の第 1 学年表現の内容（1）オ「短い歌詞に節付けしたり、楽器のための簡単な旋律を作ったりして、声や楽器で表現すること」、キ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音のかかわり合い、形式などの働きを感じ取って表現すること」に、関わっている。オについては、実際には楽器のための創作ではないが、創作活動を手がける手段としてリズム打ちを行い、手打ちやひざ打ちを通して音楽を構成しているリズムや音色、強弱等の要素などについて考えていくことができる。また、この内容は、表現の工夫という視点からはキ、の内容とも関わっており、リズムパターンの反復や変化を感じ取ることで拍子や形式などの働きについても考えることができる。これらの内容をふまえて、実際の学習活動においては、個人やグループでの活動について、創作によるお互いの発想を認め合ったり、比較によって自分の作品の特徴を発見できるように、他者とのかかわりを充実させながら学習を進めていきたい。

（２）　生徒の実態

入学以来、歌唱や器楽表現を通して、表現学習に取り組んできた。それによって、少しずつ表現することへの意欲も見られ、また、技能面でも歌唱技能や楽器の演奏技能が少しずつ向上してきている。しかし、限られた時間の中で、表現の工夫や創作を中心にした学習活動が少なかったために、思考・判断にあたる「音楽的な感受や表現の工夫」の力の向上がまだ十分とはいえない。そこで、本題材で、創作活動を取り上げることによって、自らの感性によって、リズムを創作し、また友達の創作に触れることによって、音楽活動に対する受動的な姿勢から、主体的な姿勢への変換が図られ、「音楽的な感受や表現の工夫」の力がつくと思われる

本題材においては、音符をもとにリズムの創作を行っていくが、リズムをとらえる上で聴覚的な要素のほかに、楽譜という視覚的な要素からもアプローチを図り、リズムを合わせて楽しむという活動をとおして、音楽に親しむ環境や資質を身に付けさせていきたいと考えている。

（3） 指導の構想

本題材では、言葉を用いたリズム音読を行い、音楽を作り上げているリズムや拍子の存在を考えながら表現学習を進めていきたい。それによって、感覚的にとらえたものが聴覚的にどうなっているのか、またそれが、視覚的にはどうなっているのか、を考えながら、音楽と表現、そして楽譜とのかかわりを体感させていきたいと考えている。

使用する音符は、四分音符、八分音符とし、休符もその長さに対応して四分休符、八分休符に限定して創作を行う。また、新たな場面からの創作ではなく、モチーフを与え、部分的にも範囲を限定して行っていく。「作る」という活動においては、音符等の長さの学習や、拍子に合うリズムを確実にはめていくことを確認しながら進めていく。また、いくつかのパターンを考えさせ、手打ちの部分、ひざ打ちの部分など、重ねて表現できる方法や、合わせて「面白い」と感じるリズムを工夫させたりする。「作る」活動の後には「演奏する」という活動になるが、個人での練習や、他人と「合わせる」練習をし、自分の主観だけでなく、他者とのかかわりの中で表現するという活動を通して、音楽の諸要素の働きを感じ取らせていきたい。

音符や休符の意味、表記の仕方についても学習しなければならないが、知識的な側面だけにとらわれることのないように配慮し、あくまでも、「つくる」、そしてそれが「いい感じに合わせれる」といった学習の営みの中から、音楽に関心を持ち、音楽を愛好していこうとする基本的な姿勢を持たせていきたいと考えている。

3　題材の指導目標

＜関心・意欲・態度＞

音楽が作られている要素に関心を持ち、周囲とかかわりを持ちながら、積極的にリズム創作を行い、合わせて表現していこうとする姿勢を育てる。

＜音楽的な感受や表現の工夫＞

拍子をとらえ、リズムなど諸要素の働きを意識した表現の工夫をさせる。

＜表現の技能＞

音符や休符の意味を理解し、簡単なリズムの創作ができるとともに、合わせて表現できる技能を身につけさせる。

＜鑑賞の能力＞

互いの創作を聴き合いよさを見出そうとさせる。

## 4　題材の評価規準および指導計画

| 時間 | 評価規準<br>学習過程 | リズム打ちや創作を楽しみ、すすんで表現しようとする。<br>合わせて表現することに関心を持ち、グループで協力して活動しようとする。<br>【関心・意欲】 | 拍の流れを感じ取り、リズム創作の工夫をしている。<br>テンポや音色、リズムの変化を感じ取り、グループで合わせ方を工夫している<br>【感受・工夫】 | 拍子に合ったリズムを作ることができる。<br>手打ちと足打ちなどを組み合わせて、リズムアンサンブルをすることができる。<br>【技能】 | 互いのリズムの違いや変化を聴き取ることができる。<br>【鑑賞】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 四分音符と四分休符を用いたリズムの創作 | 言葉を用いたリズムやリズム打ちに関心を持ち、進んで表現しようとしている | 拍子を感じ取り、言葉を用いたリズム読みや手打ちのリズムを工夫している | 休符の意味を理解し、拍子に合わせたリズムを作って表現することができる | |
| 2<br>本時 | 八分音符と八分休符を用いたリズムの創作 | 細かいリズムや速いテンポの動きに関心を持ち、進んで表現しようとしている | 拍子の裏拍を感じ取り、その組み合わせを工夫している | 手打ちと足打ちを組み合わせたリズムを作り、表現することができる | |
| 3 | リズム・アンサンブルの工夫 | 合わせて演奏する面白さを感じ取り、グループで協力しながら活動しようとしている | グループで、テンポや音色、リズムの変化を工夫している | 各自で作ったリズムをグループで組み合わせて演奏することができる | |
| 4 | リズム・アンサンブルの発表 | リズム・アンサンブルを意欲的に発表したり、聴いたりしている | | 拍子やテンポに合わせて、グループでリズム・アンサンブルを発表することができる | 互いのグループの演奏を聴き、そのよさをとらえることができる |

## 5　本時について

### （1）　本時の目標

- 拍子の裏拍を感じ取り、その組み合わせを工夫してリズムを創作する
- 手打ちと足打ちを組み合わせて演奏することができる

（２） 本時の評価

| 評　価　規　準 | | 配慮事項および支援等 |
|---|---|---|
| 【関心・意欲】<br>細かいリズムや速いテンポの動きに関心を持ち、進んで表現しようとしている | A　創作に意欲的に取り組み、素早く合わせたり、大きな音でリズム打ちをしている | テンポを遅めにして、リズムを打つタイミングをわかりやすく指導する |
| | B　創作に意欲的に取り組み、拍子に合わせて、リズム打ちをしている | |
| 【感受・工夫】<br>拍子の裏拍を感じ取り、その組み合わせを工夫している | A　リズム打ちをしながら、効果的に八分休符を用いてリズムを創作し、裏拍を感じ取っている | 前時での言葉を用いたリズムを範唱させ、裏拍を感じ取らせるようにする |
| | B　八分休符を用いてリズムを創作し、裏拍を感じ取っている | |
| 【表現の技能】<br>手打ちと足打ちを組み合わせたリズムを作り、表現することができる | A　テンポを変えても手打ちと足打ちのリズムを正確にとらえて、組み合わせて演奏している。 | 簡単なリズムに修正させる<br>テンポを遅めに取り組ませる |
| | B　一定のテンポで、手打ちと足打ちを組み合わせて、演奏している | |

（３） 本時の展開

| 段階 | 学習内容 | 学習活動 | 時間 | ◆評価等　□留意点 |
|---|---|---|---|---|
| 導入 | １、既習事項の確認<br><br><br>２、本時の課題確認 | ・　言葉のリズムによる言い回し<br>・　四分音符、四分休符のリズム打ち<br>→　全体やグループに分けて表現する<br>【短い音符や休符を用いて、リズムをつくろう】 | 15 | □手拍子や声の音量を大きめに出させ、学習に対する意欲を高める。 |
| 展開 | ３、リズム読みの工夫<br><br><br><br><br><br>４、音符の理解<br><br><br><br><br><br>５、創作および表現の工夫 | ・　短い音符休符の言葉の言い回し<br>空欄箇所を設け、その空欄を意識しながら言葉の言い回しを行う。（黒板を利用）<br>→　任意に空欄箇所を設けて表現する<br>→　列やグループごとに分けて発表する<br>→　個人ごとに分けて発表する<br>・　プリントを配布し、表記の仕方を確認<br>・　八分音符の意味の理解<br>・　八分休符の意味の理解<br>→　書き方、読み方、意味を確認する<br>・　モチーフの練習<br>・　休符を用いたリズムの創作<br>→　裏拍のとり方を実際のリズムと楽譜の中で確認する<br>・　手打ち、足打ちのリズム（2 パート）の創作<br>→　交互に打つ方法、同時に打つ方法の組み合わせ方を参考に創作の工夫する<br>→　実際に表現するための練習<br>・　手打ちと足打ちの組み合わせ方を、実演を交えてさらに工夫する | 25 | ◆細かいリズムや速いテンポの動きに関心を持ち、進んで表現しようとしている<br><br>□テンポを変えたり、様々なバリエーションで生徒に表現させて、定着をはかる<br><br><br><br>□実際の演奏と表記の仕方との関連性をとらえさせる<br><br>◆拍子の裏拍を感じ取り、その組み合わせを工夫している<br>□生徒一人ひとりに適切な個別指導をする<br>◆手打ちと足打ちを組み合わせて演奏することができる |
| 終結 | ６、本時のまとめ | ・　創作したリズムをリレーで発表<br>→　次時での活動のヒントを提示する<br>・　ビデオで演奏の例を紹介する | 10 | □適当な例を紹介し、組み合わせの方法を考えさせる |

## 導入にあたって

- 月火水･･･四分音符、八分音符で確認
- 手拍子での練習
- 音符の名称、書き方の確認

## 練習にあたって

- テンポを速めていく。
- 大きな音、はっきりした音で演奏できるようにさせる。
- 休符の間を集中して、感じ取れるようにさせる。

## リズム創作にあたって

- 拍打ちと、裏拍打ちの違いを確認する。
- 手と足を交互に打つ場合と、同時に打つ場合の演奏難易度について確認する。
  （モチーフはすべて交互に打つ場合になっているが、同時に打つ場面を入れるとどうなるか）
- 休符を乱用しないようにする。（拍を失う可能性が高い）
- 大きい音でリズム打ちができるように練習する。

## まとめにあたって

- 手打ちの部分を書くことができたか
- 足打ちの部分を書くことができたか
- 合わせてリズムを打つ練習をしたか
- 上手くあわせてリズム打ちをすることができたか　　挙手によって確認する

- 手と足が交互に組み合わせられている曲
- 休符が乱用されていない曲
- 裏拍がうまく活用されている曲　　抽出しておき、発表させる

- 休符があると面白い･･･
- 合わせて楽しい、緊張感と面白さ
- アンサンブルの要素の確認
- リズム＝　拍子、速さ、強弱、とのかかわり　＝　「合唱する」ということとのかかわり
  （他の要素とのかかわり）